

アイデンティティの多様性と共生 (コアプロジェクト1)

近代の文明を構成してきた、国民、民族、人種といったアイデンティティを問い直す時期に来ている。このプロジェクトでは、文明研究所の第4期研究プログラムのテーマである「対話と共生：創出すべき21世紀文明の構成原理」のためにその問題性と可能性を検討するものである。研究の初年度と第2年度は、沖縄の自治・独立運動、戦争のモニュメントと記憶、ユダヤ人と国民国家、在日ブラジル人の教育、アフリカ正教会、外国人の参政権といったさまざまなテーマにおいてアイデンティティに関する問題がどのように出現しているかという問いを設定することから出発した。プロジェクト3年目にあたる本年は、研究領域を組み換え、新しい所員の参加をえた上で、在日ブラジル人の教育、異文化対処能力の教育モデル、沖縄における儀礼と音楽といった現代の問題と、歴史研究としてはフランスの中世をロマネスク聖堂の増加の視点から、そして同じくフランスにおける19世紀以降の公教育における宗教教育に関する研究を実施した。

ブラジル学校高校生のポルトガル語と日本語の作文力調査 (中間報告)	小貫 大輔
八重山地方の祭祀と芸能 —— 西表島祖納の節 (シチ) 祭 ——	磯部 二郎
19世紀アルザスユダヤ人の同化と初等教育	川崎 亜紀子
南仏アルデッシュ県ローヌ川西岸流域の中世ロマネスク聖堂について —— シャンパーニュ・シュル・ローヌからヴィヌザックまで ——	中川 久嗣
異文化間能力の指標と指導モデル構築の試み	松本 佳穂子